

第2回
定例会

一般質問

第2回定例会の一般質問は、6月11日に行われ、7名の議員が登壇し、質問がされました。

今定例会については新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、特別な措置として、各会派代表者並びに無会派の計7名により通常よりも時間を短縮し、新型コロナウイルスに関連する事項に限定して行われました。各議員の質問と答弁の要旨をお知らせします。



青木 和夫 議員

検査体制の確立について

問 PCR検査車が導入されるが、運用方法について伺う。また、現状の検査体制はどうなっているのか。

答（健康推進部長） 運用方法については、医療機関の診察等で検査を必要と判断された患者が地域外来・検査センターで医師により検体採取を行い、PCR検査機関へ検査を依頼する。現状の検査体制については、茨城

県が古河市医師会への委託を行い、古河市が協力する形で地域外来・検査センターを開設する準備が進んでいる。



水道料金の全額免除について

問 水道料の基本料金、月額4千万円を4カ月免除は大いに評価出来るが、それに加え使用料を含めた全額免除を要望する。

答（市長） 緊急事態宣言後に再開された経済活動を注視し、水道事業における経営状況などを考慮した上で、必要に応じて市

民や事業者への支援に努めたい。

高齢者の生活支援拡大について

問 75歳以上の高齢者に対する支援は、公的サービスも含め多々あるが、市独自の支援策として、75歳以上の高齢者へ1万円、財政的に厳しければ5千円をプレミアム商品券で給付することを要望する。

答（市長） 新型コロナウイルスにより高齢者の生活に影響があるかどうか状況を見極め、高齢者への支援が必要と判断した時には、プレミアム商品券や優遇措置等を検討したい。

答（福祉部長） 高齢者の生活に生じる不安を軽減できるように支援を行いたい。